

伊賀警察署協議会議事録

令和8年度第1回伊賀警察署協議会	
日 時 場 所	令和8年7月9日（木）午後2時00分～午後3時40分 伊賀警察署3階会議室
出 席 者	1 三重県公安委員会 1名 村田典子委員 2 警察署協議会 7名 堀川紘一郎委員、神戸宏規委員、西岡崇委員、亀山香織委員、鈴木美樹委員、西尾浩司委員、林みち子委員 3 警察署 9名 署長、副署長、副参事（会計課長）、警務官、生活安全係長、地域課長、刑事課長、交通係長、警備課長
オブザーバー参加	県立伊賀白鳳高等学校 3名 引率教諭1名、生徒2名
傍聴者数	なし
公開・非公開の別	公開
議 事 概 要	
1 感謝状贈呈 2 委嘱状の交付 3 公安委員会委員挨拶 4 警察署長挨拶及び警察署幹部紹介 5 警察署協議会委員自己紹介 6 警察署協議会会長、副会長の選出 警察署協議会委員の互選により、会長に堀川委員を選出し、会長が神戸委員を副会長に指名した。 7 通常点検視察 8 管内治安情勢 (1) 刑法犯認知・検挙状況 (2) 特殊詐欺等認知状況 (3) 交通事故発生状況 9 協議内容 (1) 警察署協議会委員からの事前質問等に対する回答 ア 交通事故防止対策について ＜委員＞ 交通事故が発生しやすい場所や時間帯に傾向はあるか。 【交通係長】 交通事故は、トンネル、橋、カーブ等の単路、交差点及び駐車場で発生が多い。特に午前8時頃から午前10時頃までと、午後4時頃から午後6時頃までの間における発生が多い傾向がある。 ＜委員＞ 今年度、重点的に取り組む交通安全対策はあるか。 【交通係長】 本年度、県警に配備されたVR（バーチャル・リアリティー）ゴーグルを活用した体験型の交通安全教育に力	

を入れていきたい。

イ 地域との連携強化について

＜委員＞ 地域との連携をさらに強化するための課題と今後の取組はどうか。

【生活安全係長】 これまで警察は、関係機関との一対一の連携強化を推進してきたが、複数の関係機関との連携強化までは至っていなかった。これを踏まえ、今年5月、複数の関係機関が一つのチームになって特殊詐欺防止対策を推進する「特殊詐欺撲滅プロジェクト」を発足した。今後、同プロジェクトが有効に機能するよう努めていく。

【地域課長】 地域警察官は、巡回連絡や交番・駐在所連絡協議会により地域との連携に努めているが、活動が形骸化しないよう、工夫を凝らし活性化に努めていく。

ウ 登下校時における子どもの安全確保対策について

＜委員＞ 西小学校校区内の通学路に崩れかけの家があるため、対策や対応をしてほしい。

【生活安全係長】 関係機関・団体・地域住民と連携し、通学路等の警戒活動などを推進している。通学路の崩れかけの家については、伊賀市役所空き家対策室が既に把握済である。

エ 特殊詐欺被害防止のためのわかりやすい広報と取組の推進について

＜委員＞ 警察をかたる特殊詐欺が増えている。警察と地域が連携して、わかりやすい広報と未然防止に一段と力を入れてほしい。

【生活安全係長】 署員で編成した「劇団伊賀ポリスターズ」による被害防止の寸劇を行うなどして、手口や危険性をわかりやすく広報している。「特殊詐欺撲滅プロジェクト」では、関係機関や地域全体で被害防止の意識醸成を図っていく。

オ 夜間におけるバイクの騒音及び暴走行為について

＜委員＞ 深夜から早朝にかけて、バイク複数台が、近所を大音量で走り回る行為が常態化している。

【交通係長】 「伊賀警察署暴走族特別取締班（IGA暴走族Gメン）」を編成して、情報収集、検挙及び補導活動を実施している。

カ 地域内における不審者情報及び防犯対策について

＜委員＞ 上野徳居町の住宅敷地内において、洗濯物を物色したり、不自然にのぞき込んだりする特定の人物に関する目撃情報や噂を聞いた。本人に対し継続的に注意できないか。

【生活安全係長】 パトロールの強化や、特定した行為者に対し、指導等により犯罪の未然防止を図っている。事案に応じて必要な措置を検討し、対応していく。

キ 菅原神社近辺の道路における路上駐車及び通行ルール変更に伴うトラブルについて

＜委員＞ 菅原神社近辺の道路において、多数の車両による路上駐車が常態化している。交通規制が変更されたが、この変更を知らないドライバー間のトラブルが目撃されている。

【交通係長】 駐車禁止区域であるため、取締りを強化する。引き続き広報啓発等を実施し、交通規制解除について周知していく。

ク 男性警察職員の育児休暇（休業）について

＜委員＞ 男性警察職員は育児休暇を取りやすい職場になっているか。

【警務官】 三重県警察では、「令和11年度までに85%以上」を目標に、各種施策を推進し、育児休暇を取得しやすい環境を作っている。

ケ 警察官と子どもとの接点について

＜委員＞ 子どもの頃から警察官と関わりを持つことで、警察官が身近な存在となり、犯罪抑止やなり手不足の解消につながるのではないか。

【警務官】 制服警察官による通学路での警戒活動や地域のイベントへの出席等を行っている。中学校や高校にも積極的に取組を行い、警察職員の志望者数拡大につなげていきたい。

コ 桑町駅から伊賀白鳳高校までの通学の安全について

＜オブザーバー＞ 桑町駅から学校に行くまでに通る橋が、車両も歩行者も多く危険に感じている。

【交通係長】 通学時間帯の交通量は多く、橋の道路幅は狭い上、白線がほぼ消えていることを確認したことから、伊賀市に対応を依頼した。

サ 警察が行うクマ対策について

＜オブザーバー＞ クマの出没に対して、警察としてはどのような対策をしているか。

【地域課長】 警察は、関係機関・団体と連携し、安全確保の呼びかけや避難誘導等を行い、住民の安全確保を最優先とした対応を行っている。

(2) 意見交換・質疑

ア 運転免許更新時の高齢者対象の検査や講習について

＜委員＞ 自動車学校での講習と警察による検査の違いは何か。

【交通係長】 自動車学校では、運転免許更新のための高齢者講習を実施している。警察では、特定の違反をした75歳以上の高齢者と運転に影響がある病気に罹患したと診断された方に対し、臨時適性検査を実施している。

イ 名阪国道の中瀬I.C.の不法投棄について

＜委員＞ 名阪国道の中瀬インターチェンジによくごみが投棄されているが、なんとかならないか。

【生活安全係長】 伊賀市、道路管理者等と連携して、対策を講じていきたい。

10 今後の予定について

11 警察署長謝辞

備 考	報道機関 2 社 2 名
-----	--------------